



今月の話題

- 2ヶ月間のグローバル地震観測コースが終了
- ラテンアメリカにおける地震及び津波被害に関する国際シンポジウム
- IISEE 同窓会
- 京大国際ワークショップ
- メキシコ国立大学 (UNAM) 地球物理研究所訪問
- 訃報
- 研修生代表答辞

研修 データベース

IISEENET (地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース (修士論文概要)

Bulletin データベース

2ヶ月間のグローバル地震観測コースが終了

国際地震工学センター 管理室長 飯場 自子、上席研究員 芝崎 文一郎

1月21日に開始したグローバル地震観測コースの閉会式が、3月14日(金)、JICA 筑波において開催されました。ポリビア、フィジー、ミャンマー、ネパール(2



閉講式

人)、パキスタン(2人)、パプアニューギニア、タイからの9人の研修生が式典に参加し JICA と IISEE の修了書を授与しました。ポリビアのゴンザロ・アントニオ・フェルナンデス・マラニョン氏が研修生代表として挨拶をしました。(4ページ参照)

グローバル地震観測研修コースは、核実験に対する検証体制の確立に貢献するために日本政府によって設置されました。研修生は主に包括的

核実験禁止条約(CTBT)の未署名国と未批准国から来ています。

研修を通じて研修生は、CTBT 体制および国際監視制度(IMS)における地震学の役割についての知識を習得しました。その他、核実験と地震を監視するためのグローバル地震観測技術および核実験と自然地震を識別するデータ分析技術について学びました。また研修の最後に、帰国後に実施するためのアクションプランを作成しました。

今年は外務省による核軍縮についての日本の展望に関する講義が新しく加わりましたが、研修生は外務省で熱心に議論していました。また、地震解析の演習では研修生同士で教え合っていたのが大変印象的でした。

さらに、グローバル地震観測やデータ解析に関する専門知識や技術は、各国において地震災害の軽減にも役立つことでしょう。この研修の実施に当たりまして、包括的核実験禁止条約機関(CTBTO)、外務省(MOFA)、国際協力機構(JICA)、気象庁(JMA)、関係の皆様にご大変お世話になりました。本コースへのご支援とご協力に深く感謝申し上げます。



アクションプラン発表

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IISEE Bulletinは、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



ラテンアメリカにおける地震及び津波被害に関する国際シンポジウム

国際地震工学センター 主任研究員 藤井 雄士郎

このシンポジウムは2014年3月7日にコクヨホール(東京都港区)にて、JST(科学技術振興機構)、JICA(国際協力機構)、及びSATREPS(地球規模課題対応国際科学技術協力)プロジェクト(ペルーとチリの2つのプロジェクトは現在統合されています。)の協力により開催されました。



(千葉大学 HP より転載)

同シンポジウムに、2013-2014地震工学コース参加者の8名が研修の一環として出席し、柴崎氏、谷氏、そして私(藤井)もまた、ラテンアメリカでの地震及び津波防災政策の現状を知るために出席しました。IISEEの研修コースの元研修生を含む、ペルー、チリ、コロンビア、そしてエルサルバドルからの多くの研究者の方々とお会いできたことは大変光栄でした。



(千葉大学 HP より転載)

このシンポジウムには、ラテンアメリカの7つの国(ペルー、チリ、コロンビア、エクアドル、メキシコ、ニカラグア、そしてエルサルバドル)から約25名の研究者が招待され

ていました。「日本における地震災害軽減研究と国際協力」及び「ラテンアメリカにおける地震活動と地震危険度」という二つの基調レクチャーの後、各研究者が自国についてのカントリーレポートを発表しました。ペルー及びチリのSATREPSプロジェクトに参画する約70名の日本の研究者もまた、このシンポジウムに出席していました。パネルディスカッションでは、災害軽減において必要なものはなにか、各国において何が問題になっているのかというテーマについて広く議論され、この種のシンポジウムを毎年開催する、という決議が採択されました。

IISEE 同窓会 - アジア地震学会総会にて -

フィリピン政府(フィリピン地震火山研究所とマカティ市)は、2014年11月17-21日に、第10回アジア地震学会総会(10thASC)を、マカティ市において開催します。この機会を利用して、IISEEは国際地震工学研修の同窓会を企画しています。是非ご参加下さい。



楽しむのは今です。

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは
下記をご覧下さい。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

京大国際ワークショップ

国際地震工学センター長 横井 俊明

2014年3月4-6日、京大防災研究所で開催された国際ワークショップ「New Initiative toward the Advancement of Strong Motion, Site Effect, and Risk Evaluation Studies for Future Mega-Quakes」に参加しました。

カリフォルニア工科大学の金森先生のスペシャルレクチャーを始め、国内外の若手研究者による震源特性・伝播特性・表層の増幅特性・地震危険度解析等に関する最新の研究内容の発表が行われました。国際地震工学研修卒業生Dr. Nelson Pulido Hernandez (1991-1992 耐震工学コース Colombia)も発表しました。この有意義な会議を開催された京都大学の先生方に敬意と感謝を表します。

メキシコ国立大学(UNAM)地球物理研究所訪問

国際地震工学センター 上席研究員 芝崎 文一郎

3月17日から21日まで、メキシコ国立大学(UNAM)地球物理研究所を訪問いたしました。最新の高精度測地観測により、メキシコ沈み込み帯に沿ってスロースリップイベントが発生していることが分かっています。ゲレーロでは、Mw 7.5 程度の大きなスロースリップイベントが3-4年周期で発生しています。またゲレーロには近い将来大地震が起こり得る地震空白域があります。訪問中には、ゲレーロ地震空白域における応力蓄積の観測調査および津波危険度評価に関する将来の研究プロジェクトについての議論に加わりました。私からはゲレーロでの沈み込みプレート境界におけるスロースリップイベントと巨大大地震発生との関係性について説明しました。訪問中にはジャカラダの木の花が満開でした。



メキシコのジャカラダの木の花

訃報: Dr. Sheldon Cherry (カナダ)

2014年3月23日にカナダブリティッシュコロンビア大学名誉教授シェルドン・チェリー氏がお亡くなりになりました。

チェリー博士は、1966年～1967年の間ユネスコからの専門家としてIISEEに滞在されました。国際地震工学研修設立の祖の一人でもあります。

IISEE へのチェリー博士のご支援に対し深く感謝申し上げます。ご家族の皆様にも、IISEE 一同、心からお悔やみ申し上げます。



研修生代表答辞

ご来賓の皆様、おはようございます。

建築研究所 国際地震工学センター(IISEE-BRI)及び JICA 筑波にて実施されたグローバル地震観測研修の締め括りとして、このような研修生代表挨拶を務めますことを、とても光栄に思います。



ゴンザロ氏(閉講式にて)

JICA 筑波所長木邨洗一氏、国際地震工学センター長横井俊明氏、外務省軍縮不拡散・科学部軍備管理軍縮課の小野建主席事務官、そしてこのプログラムの実現に尽力されたすべての方に対して、研修生同期を代表して格別の御礼を申し上げたいと思います。

ご列席の皆様に関心掛けさせて頂きたいのですが、グローバル地震観測コースの一番の目的とは何でしょうか。科学的に、そして厳密に言えば、グローバル地震観測コースは、遠地地震イベントの存在を確認し、それが核実験などによる爆発なのかどうかを測定により識別するためのものという答えになります。しかし、我々が社会的貢献を果たさなければ、この答えを満たすことは出来ないでしょう。

IISEE-BRI にて、最高の講師の方々の講義を受けながら、我々は母国にいるようにくつろいで過ごすことができました。なぜなら、IISEE-BRI の講師の方々は臨機応変の姿勢で、時には昼休みであっても、我々を手助けし、疑問に答えてくれたからです。我々は、「だめです」という応答を聞いたことがありません。いつも聞くのは「はい」という言葉と丁寧な説明でした。幸運なことに、我々は日本を回ることができました。気象庁での受講のために東京に行き、緊急地震速報システムの相互連携準備が整っていることを学びました。そして、日本気象協会では、包括的核実験禁止条約における日本の義務を果たすために、国内データセンターが包括的核実験禁止条約機構のシステムを使用していることを学びました。

外務省では、核兵器とその拡散に対して日本が反対する姿勢についてよりよい理解を得ることができました。小野建氏と外務省の尽力に称賛の意を表したいと思います。広島平和記念資料館では、我々は、原子爆弾について学び、大変なショックを受けました。不幸なことに、日本は世界で唯一、原子力攻撃の影響で苦しんだ国です。世界の他のどの国も、このような兵器を行使することを考えるべきではありません。神戸では、人と防災未来センターに行き、阪神・淡路地震による被害を知り愕然としました。

どちらのケースにおいても、日本の人々は、互いを助け合い、過去から学ぶことにより、暗闇から光のなかへ立ち上がってきました。そして、共通の目的を達成するために、自身を発展させ、進み続け、決してあきらめなかったのです。長野では、松代地震観測所にて、光栄にも、天皇御座所に入ることができました。また、各国の地震観測所に多くの情報を提供する、世界で最も重要な地震観測網の一つについて学ぶことができました。

JICA コーディネーター、そして IISEE-BRI のサポートスタッフにも、感謝の意を表すのを忘れてはなりません。彼らは、我々を親切に手助けしてくれ、有益な助言をしてくれ、レクチャーノートの準備をしてくれました。私が東京で迷子になってしまった研修旅行でもガイドをしてくれました。JICA そして IISEE-BRI のサポートスタッフの皆さん、謹んで我らの守護天使と呼ばせて頂きたいと思います。



外務省にて

さて、我々の研修の本当の目的を述べさせて頂きたいと思います。我々は皆、地震イベント識別についての深い知識を最高の先生方から学びましたが、CTB 条約における義務を履行するために、そして、核兵器による脅威のないよりよい世界を実現を望み核兵器に反対する日本の立場をサポートするためにも、この知識が我々の機関や国で広められる必要があります。

聖イグナチオ・デ・ロヨラの言葉を引用して、この挨拶を終わりたいと思います。「他人を助けるために自身を発展させなさい。」日本の方々が常に他人を助けるために自身を発展させてきたように、我々もまた、他人を助けるための用意ができています。これは、「さよなら」ではなく、「ではまた」です。どうもありがとうございました。皆様に神と聖母マリアの祝福がありますように。ご清聴ありがとうございました！！